

効果発信 意識を共有



堀 関心の高まりを感じた 佐藤 定着には研究会が一番

教育に新聞を活用する取り組みの深化、普及を目指した「第21回NIE全国大会大分大会」は4、5の両日、約1400人が参加し大分市で開催。パネルディスカッションや公開授業などを通じて大分ならではの新聞活用を発信し、参加者がNIEの多様なノウハウを共有した。大分大会の実行委員長、堀泰樹さん(大分大学教育学部教授)と運営委員長、佐藤由美子さん(大分市寒田小学校長)の2人に大会を振り返ってもらい、大会後もNIEを県内に根付かせていくために必要なことなどを聞いた。

運営委員長 佐藤由美子さん



「主権者教育とNIE」では全国の動きをしつかり押さえつつ幼稚園からの主権者教育の枠組みが示され、参考になった。

「子どもたちは公開授業で、生き生きとした様子を見せてくれた。」

堀 大勢の人が見ている中、自分の意見を堂々と言えたのが素晴らしい。教員も場を盛り上げ、重苦しさを取り除いていた。きっと教員の学級づくりもうまくできているのだろう。

佐藤 寒田小の公開授業は当日が一番良くできていた。これが子どもたちのすごいところ。全体を通じて、小学校から高校まで発達するにつれて、大人になる様子が見られて良かった。

堀 「学校図書館とNIE」で図書館を情報センター、学習センターとして新聞環境を整えている中津市の事例は、これからの先進的モデルになる。

佐藤 成長の様子が見られた

堀 求められる能力根付く

堀 高校生新聞は短い時間でちゃんと文章がまとまらね、実社会で求められる能力がしっかりと付いていると感じた。由布高校生の神楽にも圧倒された。

佐藤 難しい記事を読むことがNIEとされている人がまだ多い。工作を通じて新聞に親しむところを見せられたのは良かった。「そこから始めないと」と参加者にも言われ、意を強くした。

佐藤 小野正嗣さん(芥川賞作家、佐伯市蒲江出身)の講演は新聞と文学を非常によく結び付けて話してくれ、感動した。(佐藤運営委員長がコーディネーターを務めた)パネルディスカッションは「楽しくなければNIEじゃない」と、これから始めようとする教員らに対象を絞ってみた。NIEの「マニア」には物足りなかったかもしれないが、参加者が意識を共有しチームになったと思う。

堀 講演の「新聞は包み込

大分大会では県内の教育関係者が約600人参加し、近年の大会では特に多かつ

た。

堀 多くの教員が興味はあった。たくさんだと思う。具体的な

佐藤 いろんな場でアピール 堀 達人より普通の教員に

授業を見たことで、理解が広がることを願っている。今後、実践研究会と教員がリンクしていくことを期待したい。

佐藤 NIEを「やってみよう」という人を増やしたいという気持ちでやった。NIEの日頃の姿を見せることができた。県教委や大分市教委が、異例ともいえる参加を促す通知文を出して後押ししてくれた。

「全国大会が終わっても、むしろこれからNIEの始まり。NIEを広げていく上での課題は。」

佐藤 学校管理職や教育委

(聞き手はNIE推進室長・白倉純)



大分大会を振り返る堀泰樹さん(左)と佐藤由美子さん＝6日、大分合同新聞社

実行委員長 堀泰樹さん

